
おとめ

はなだりょう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おとめ

【Nコード】

N7340V

【作者名】

はなだりよう

【あらすじ】

おれね、女になりたい願望が昔からあるの。一時期ちょっとそっちに偏って走ったけど、でもやっぱね、「自分として」生きることにしたの。「おとめ」はね、ただいればいいんだよ。自分の中にいるもん。それだけ。それでいいの。

僕は自尊心、虚栄心が半端なく強い。

コンプレックスの裏返しだと思う。

幼稚園小学校ではいじめられてたし、中学高校では「見えない君」だった。

自分は負け組なんかじゃない！と「思いたい」気持ちが強かったし、同時にそれは「自分は負けてる」っていう自覚の裏返しでもあったと思う。

なんかこう、目に見えない序列的なアレで。

そのせいか

「この凡人共め、いつか絶対見返してやる」みたいな屈折した気持ち、

「今では俺の方が全然格上である事を知らしめてやりたい」みたいな鬱屈した気持ちが未だにどっか残ってくすぶってる。

昔自分を苛めてた連中と街で偶然会うと、大抵俺はコンプレックスの裏返しと虚栄心で尊大な態度に出るし、相手はなんとなく怯んだ感じになる。

俺の事苛めてきた記憶と、目に見えない現在の序列みたいなものが
そうさせるんだろうなと思う。

おれを苛めてきたそいつはなんとなくシママラで上下揃えちゃった
みたいなパツとしない雰囲気になっちゃってて、対する俺はそこそ
こには今風になってて、そういう格差みたいな。

相手が明らかに俺の顔うかがって、ヘラヘラしながら話してるのが
分かる。

場の主導権を自分が支配してる感じ。

気分が高揚する。

なんとなく満たされる。

お前、昔あんなに態度でかかったのに、俺の前で随分ちっちゃくな
っちゃったなあ、と思う。

同時に、歪んじやったなあ自分、とも思う。

俺もまた、彼らとは別の部分で小さい人間になっちゃったんだなあ
って。

女装に関しても、自尊心、虚栄心を強く意識させられる場面がある。

立場としては逆で、おれが弱い側だけど。

男モードの時はそれなりに優位な立場にいる感覚が常にある。

半分は勘違いなんだけど、まあそれはいいんだ。

でも女装の世界に來ると、余裕で雑魚になる。

序列の最下層の側になる。

綺麗な人を崇めて、羨んで、下唇噛みながら涙ちよちよぎらす側になる。

上記みたいな鬱屈した虚栄心、自尊心が元々強いせいで「勝てない事」が悔しくて悔しくて仕方ない。

「何この子超絶かわいい、圧倒的に負けてる自分、勝てっこない、超悔しい、ムキイイイ」

↓

「なんで自分ってばこんなにも女の子と程遠い物体なんだろう。そもそも何で女の子じゃなかったんだろう。苦しい。死にたい。吊ろう」

みたいな心理動作が、自分の中にある。

「自分が女性でない事」の苦痛と、「ただ単に美的な部分で敗北し

た悔しさ」を混同して悶絶してる節がある。

とはいえ元々女性になりたい願望もやっぱりあるにはあるんだと思う。

普通に男の子に恋とかした事あるし、可愛い服とかメイクとか髪型みると気持ち高まるし、だから女物のアパレルで働いたりもしてたんだし。

似合わないすぎるから持たないけど、ほんとには可愛いぬいぐるみとか大好きだ。

だから勝ち負け関係無く、可愛くなれない自分超しんどーいってなる部分もあるんだけど、言っちゃえば実物の女の子だって、自分にデフォで納得してる子なんて多くないと思う。

男だろうが女だろうが、多くの人は自分に最初から納得なんかできてなくて、どうやって納得する姿に近づくか試行錯誤しまくって、ファッションとか髪型とか研究して、失敗を重ねまくってちよつとずつ自分の個性やスタイルを知って「自分の納得できる姿」に近づいていくんだと思う。

だからというか、なんというか自分は多くの場合、見当違いの方向で苦しんでる感が否めないんだ。

そこは、別に純女さんも苦しんで、普通に戦ってる場面じゃね？っ

て。

ちんこついてるかついてないかはこの際あんま関係なくね？って。

あくまで、自分に関してはっていう話なのだけど。

それはそれとして、

「勝ちたい意欲」

闘争心って大事だ。

闘争心がないと、人は頑張れなくなる。

「勝ちたくて頑張ってる人」に全て持ってかれて、人生は際限なく先細っていく。

だから闘争心そのものは大切なんだと思う。

でも、自分みたいに、歪んだ境遇があると、闘争心を燃やすべき場面が変な方向に傾きやすい。

踏んづけられて、でもぎりぎり割れてはいなくて、ぐにやっとなった風船みたいな感じ。

本来の自然な膨張力を「踏む足」に阻害されて、変な方向に空気が逃げ場を求めて、歪んだ形の風船。

この歪んだ闘争心はかなり自分の目を曇らせてると思う。

「綺麗な人に近づきたい、近づけない。悔しい。近づくためにはホルか手術つきゃない。それか一度アポーンして転生の方で」

みたいな。

本来の自分の姿と目的を見失っちゃう。

正直ね、見失ってたと思う。

最初はただ上も下も無く、ただ「女性的」になればよかったはずなのに。

友達にお化粧してもらって、ただ高まったあの感じ。

初めてウィッグ被って、うあああってなった、あの感じ。

可愛い服見に行って、うきうきしたあの感じ。

それだけでよかったはずなんだ。

「わたし」は。

いつの間にか、思考が勝ち負けに挿げ変わってた。

勝ちたいのは、俺なのかな、「わたし」なのかな。

きつとどっちでもない、「あの日踏まれて、半べそかいて歪んだ風船野郎」だ。

なんとなく、その事に、ふと気づいたんだ。

でも、半ばトラウマみたく心にこびりついたこの歪んだ権力欲を取り払うのはとても難しくて。

それだけ強めに多めに踏んづけられてきたし、だから歪んだんだし。誇示せねばこの存在がかき消されてしまう漠然とした不安があつて。ずっといじめの対象か、もしくは見えない君だったせいかも。

「負けてる事」が耐え難い。

この感覚を取り去りたい。

きっと人生には、勝ちに行かなきゃいけない場面と、負けててもいい場面があるんだ。

自分は負けてていい場面でまで、勝ちたがってる気がする。

股間にナニぶら下げて生れ落ちた自分が「お化粧人生」を満喫する上で、妄念的に勝利に執着して努力注ぐより、勝敗を気にしない度量を養う事が大切なんだろうと思う。

もうちょい別の方向の、建設的な努力を自分はするべきなんだろうなと思う。

さそこちんや、千紗さんの自然な女性らしさを目の当たりにしなか

ったら、今でも気付かないままだったかも。

ちゃんと自分の人生いきで、ちゃんと認めてもらえる場面が増えたら、自然とこの苦痛は静まってくれる気がする。

しずまれよ、しずまれよと毎晩神様のな何かに祈らなくても。

だいじょうぶ。

見えてきたから、まだ歩ける。

何が辛いって、現在の立ち位置も、進むべき未来も、何も見えないことが一番辛いんだ。

だから今は結構わるくない。

職探しや音楽、数少ない友達を大事にすること、目の前にあるひとつひとつをちゃんと頑張っければ、繋がっていく感じがする。

今は皆なんだかんで、こんな自分と向き合ってくれてる。

僕の事を「視えて」いてくれる人たちがいる。

大事にしなきゃ。

普通に普段話す友達の数も超絶少ないけど、自分みたいに惰性で逃げまくってきた人間には上等すぎる環境だと思う。

優先すべきものを「歪みゆえの衝動を満たして晴らす事」じゃなくて「歪みを正して、ちゃんと笑える事」にここいらでシフトしてこう。

いつまでも過去の「自分の」亡霊に取り憑かれたままじゃ、こんな今の自分を慕ってくれる人たちにしのびない。

鬱屈したアレで盲目になって、色んなものが見えなくなって、色んな人の想いを踏みにじってきたと思う。

恥じなきゃいけないことだ。

恥じて、軌道修正して、ちゃんと胸張るべきなんだ。

虚勢じゃなくて。

きつと心の形、選ぶ生き方は人それぞれ、正解は65億通り、皆違っているし、違って当然。

幸か不幸か自分の道はこうだっただけの話。

当初は歪んだ願望が始まりだったにせよ、あの場所での出会いには意義があったんだろうし、その上で次のステップに行く事も多分自然な事なんだ。

別に化粧やめないし、髪も普通にこのまましばらく伸ばすだろうし、時々は中性的な服も着るけど、女装的な方面でがむしゃらになる事はもう無いかなって思う。

そもそもがむしゃらだった時期なんてあったかも微妙だけど。

本腰入れて頑張るのは、音楽とか、お仕事とか、人間関係とか、そっちにするの。

自分にはそっちのが大事って分かっちゃったの。

孤高に美を追求して、美しくなりたい皆の心を打ち砕いて、皆に敗北感と苦しさ与えて、勝ち誇って、自分だけの納得の世界ってきつ

とすごく気持ちいいと思うよ。

きつと最高だよ。

でも俺には無理。

夏の夜、友達とゆるい感じで歌うたって、こういう感じ悪くねえなああって、そっちが大事。

俺には音楽があるよ。

へたくそだけど、俺なりに超頑張ってきた。

あえていうけど、俺超頑張ったよ。

カラオケ行く度に、みんなに「へたくそ音もリズムもずれすぎww超きもちww」って露骨に言われたり、裏で笑われたりなんていつもの事だったけど、めげないで、虎視眈々と紡ぎ続けてきたよ。

悲しい気持ちも、悔しい気持ちも、寂しい気持ちも、伝えたい事も、全部歌にしたよ。

納得いくまでメロディと言葉捻り出して、ひたすら歌ったよ。

才能あるよって、そういう声どうやって出してるのって、ちがうよ。
毎日何十時間、十数年、ただ積み重ねただけだよ。

家族からも「まじ家で歌わないで、まじ近所の人に恥なんだけど」
って言われながら、真夜中押し殺した声で曲作り続けてたよ、高校
3年の頃毎晩朝まで。

思ったこと、感じたこと、本気で全力で叫んできたよ。

そうやって出来た仲間がいたよ。

誇るよ。そっちを。

だって愛しいもん。

人生まだ長い長い。

でもまあ明日終わるならそれもそれでよし。

とかいってまた大地震来たりしたら「まだ死にたくねー!!」と
か言って余裕で真っ先に逃げるんだけど。

それがオレだからね。許してね。

逃げたい奴は逃げたらいんだよ。

生きたい願望に逆らうこたあない。

おれはまた怖いなと思ったら普通に皆置いて逃げる所存だからね。

虚栄心の塊だから、普段強い事言うけど、実際ヨワヨワだからね。
ビビりだからね。

でもなんとなく愛すべき感じするでしょ。

こういう感じ嫌じゃない人、実は結構少ないでしょ。

露骨にもてはやされるキャラじゃないけど、隠れファンを地味にキープしてくタイプだ。

自覚ある。

嫌味でしょ。

でもこれが俺。

だからね、がんばるよはなださんは。

今はそんなことより仕事探さないと。

はやくスイカバー毎日たべれるご身分になりたいんだ。

ありがと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7340v/>

おとめ

2011年10月3日16時19分発行